

一粒の米，一つの玉子

おお まつ ひで お
大 松 秀 雄

私は農業・養鶏を始めてから33年が過ぎました。多くの同志、先輩、先生方、心ある消費者に恵まれ希望を持ち続け今日に至りました。全く後を見ないで前進、前進あるのみの青春でした。もちろん単なる経営の拡大を目指したわけではなく百姓の心意気で明るい楽しい農場と農村、町からも嫁さんが来たくなる農家をつくりたい一心だったのです。

農こそ人間生活の根底たる事を確信し、天地の化育に賛して生産に精進し、強固なる同志的団結を結び、理想農家・農村を建設せねばならぬと研鑽活動していた、愛農の先輩方に、私が農業を始めた20歳代の初めにめぐり逢えたのがこの33年間の原動力となっております。感動と出逢いが私の百姓人生、青春の方向性を決めました。

養鶏事業という事で1年365日、日曜、祭日、盆も正月も一切無し、毎日毎日鶏、鶏と、鶏に凝縮した青春でした。失敗の連続ではありましたがその度、その度に天にも多くの方々にも助けられました。私の座右の銘は「感謝」の一言なのです。

私は、何があっても信義を守り、何があっても本当の百姓になり、出来たら生命が溢れた農産物と農の情報、生命の自然の情報を欲する方々に発信提供し、共に、いよいよ農村自然公園をつくりたいのです。

鶏の玉子を通して多くの方々とネットワークが出来ました。日本はもとより海外にもビックリする程のすばらしい友人、同志が出来ました。又現在は愛農組合にも外部より多くのさわやかな青年達と壮年の方々がかわって来てくれるようになりました。

農場で農村でこの人達と共に同志と共に喜々として汗を流し語らい憩い、完全無農薬無化学肥料の自然循環農法を実践推進し、大

地と共に緑と共に経営・生活できる農場・農村、いよいよ手の届くところまで来ました。井戸を掘ってポンプを据えつけたという感じですが。これからは、心ある人達と呼び水を入れていっしょに美味しい、くめどもくめどもつきない大地からの命の水を共に飲みたいと思っております。私は、もう生産物を売りません。自分達で食べてしまいます。

養鶏は、農業の中でも一番コスト競争、規模拡大を歩んできたのではないのでしょうか。それでも未だゴール無き闘いの真最中です。何故なのでしょう？ 生産していない人達に価値基準、流通基準をつくられてしまうからなのです。そこで百姓の同志打ち、産地間競争、貿易摩擦が起きるのです。

各自が各村がそれぞれの地方が、国々がそれぞれの価値があるのです。良否、上下の関係ではないでしょう。そして、それぞれがご縁ある理解ある方々と結びついて、つくる人と食べる人、村と町が永遠に成り立つ仕組みが出来るような気が致します。

さりげなくさわやかに味わい深い農業、いよいよカントリージェントルマンの時代、今一度頑張らねばと思う今日この頃です。一度おいで下さい。

(千葉県旭市・農業)